

ガレキ・土砂撤去、除塩作業を終え、  
今年は営農再開！



津波被災した農地  
岩間地区(いわき市)



水路が復旧し、営農を再開



掛樋水路が破損した  
岡の台地区の用水路  
(鏡石町)



ガレキを撤去し、  
復旧工事を行っている。



漁船が打ち上げられた  
柏崎排水機場(相馬市)



仮締切り工事を行い  
本復旧工事を進めている。



大津波により堤防が破損した  
北海道地区(南相馬市)



**【特集】**  
ふくしま復旧便  
く農業農村の復旧に向けて

東日本大震災の発生から1年8か月が経過しました。今号では、定期コーナーの「ふくしま復旧便」を拡大して、福島県の農地や農業用施設の復旧状況をお伝えします。

**フォトレポート**  
く復旧の現場から

# 農空間

第54号

発行所  
福島県農林水産部  
農村計画課

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴い発生した大津波により、農地や農業用施設は、いまだかつてない規模の被害を受けました。その後、ライフラインなどの応急工事に取組むとともに、被害の全貌を把握するための調査を進め、東京電力福島第一原子力発電所の事故にともなう避難指示区域(平成24年3月末時点)を除いては、平成23年度内に災害査定を終えました。

その後は、農地の除塩作業や排水機場、海岸保全施設などの本格的な復旧に取り組んでいます。農地の除塩については、各地域ごとの営農再開計画に合わせ実施しており、今年度中には、約7割の除塩作業に着手し、来春の営農再開を目指す計画となっています。

また、被害が大きかった沿岸部の地域では、市町や土地改良区と連携して、大区画ほ場の整備による農地復旧の地元説明会などを開催し、農業農村の再生に向けて、取り組んでいます。



地元説明会の様子

県北農林事務所 農村整備部

このため池は大玉村玉井地内にある、堤高28・8m、堤長205m、貯水量72万m<sup>3</sup>の農業用溜池で、大玉村、本宮市の一部750haにかんがいがいしているものです。

昨年の東日本大地震により堤体中央部に大規模なクラックが生じ(長さ130m、幅60cm、深さ4~6m)、貯水池側が30cm以上沈下、また、擁壁・波除工に変状を生じるなど大きく被災しました。

工事は、県営災として、事業費約5億4千7百万円をもって、昨年度より着手しています。

平成23年度の工事は、被災が顕著で喫緊の対策を必要とする堤体天端付近の盛土工事、約2万2千m<sup>3</sup>を実施しました。

本年度は、盛土工事(カットオフ盛土及びローウオータレベルまでの押さえ盛土)2万6千m<sup>3</sup>及び仮排水路工事(ボックスカルバート71m)等の付帯施設の改修工を行っている。

来年度は、最終の盛土工事、張ブロック工事等を予定しています。

着工してからは、盛土用土の含水比が高いこと、カットオフ部の湧水量が多いこと、仮排に予定していたトンネルが壊れていたこと等、想定外のことが多々判明し、その対応に追われていますが、25年度の完成を目指し、請負・設計・発注者一丸となつて鋭意工事を進めています。

また、県北農林事務所は、東日本震災により県庁東分庁舎が被災したため、福島県土地改良会館へ移転しており、今年度の10月からすべての部が同会館の3階に集約されました。

各部との横の連携を活かして、県北地方の農林業の復興・発展のために所員一同が力を尽くしてまいります。

県内からの「復旧工事が進む 三ツ森ため池」

このため池は大玉村玉井地内にある、堤高28・8m、堤長205m、貯水量72万m<sup>3</sup>の農業用溜池で、大玉村、本宮市の一部750haにかんがいがいしているものです。

昨年の東日本大地震により堤体中央部に大規模なクラックが生じ(長さ130m、幅60cm、深さ4~6m)、貯水池側が30cm以上沈下、また、擁壁・波除工に変状を生じるなど大きく被災しました。

工事は、県営災として、事業費約5億4千7百万円をもって、昨年度より着手しています。

平成23年度の工事は、被災が顕著で喫緊の対策を必要とする堤体天端付近の盛土工事、約2万2千m<sup>3</sup>を実施しました。

本年度は、盛土工事(カットオフ盛土及びローウオータレベルまでの押さえ盛土)2万6千m<sup>3</sup>及び仮排水路工事(ボックスカルバート71m)等の付帯施設の改修工を行っている。

来年度は、最終の盛土工事、張ブロック工事等を予定しています。

着工してからは、盛土用土の含水比が高いこと、カットオフ部の湧水量が多いこと、仮排に予定していたトンネルが壊れていたこと等、想定外のことが多々判明し、その対応に追われていますが、25年度の完成を目指し、請負・設計・発注者一丸となつて鋭意工事を進めています。

また、県北農林事務所は、東日本震災により県庁東分庁舎が被災したため、福島県土地改良会館へ移転しており、今年度の10月からすべての部が同会館の3階に集約されました。

各部との横の連携を活かして、県北地方の農林業の復興・発展のために所員一同が力を尽くしてまいります。



鋭意工事を進めている



堤体天端の盛土が完了



堤体天端に大きなひび割れが発生

福島県関係各課の紹介

農村振興課

課長 長谷場 伸



農村振興課の皆さん(前列左が長谷場課長)

農村基盤整備課

課長 小島 重紀



農村振興課は、事務職4名、農業職3名、農業土木職4名の混成3チームで構成され、中山間地域など農村振興の振興に向けて、ハード・ソフトの両面にわたる業務に取り組みんでいます。まず「農地活用担当」は、全国的にも広大な本県の耕作放棄地の解消に向けて、法に基づく指導・助言や全体調査、農地への再生支援のほか、耕作放棄地を活用した被災者支援などを担当しています。また「農村集落担当」は、中山間地域がもつ多面的機能を維持し、地域の農業生産活動を守るための直接支事業や、子供たちに農業・農村の魅力を知ってもらおう「農育」などを担当しています。さらに「農村活性化担当」は、農山村の活性化につながる農業基盤や交流施設等の整備に対する支援のほか、農地・水路等を地域ぐるみで保全する農地・水保全管理支事業などを担当しています。

農村基盤整備課は、昨年6月に、農業生産基盤部門である排水事業や経営体育成基盤整備事業及び災害・防災事業等を所掌する農業基盤整備課と、農村環境部門である農道整備事業や農業集落排水事業及び中山間地域総合整備事業等を所掌する農村環境整備課の2課が統合され、1課17名体制になったことで、農業農村整備事業の県営ハド部門等を4チームにて所掌しております。現在は、東日本大震災や原子力災害により甚大な被害を受けた本県農林水産業・農山漁村の力強い復興に向けて、昨年12月に策定した「福島県復興計画」に掲げる重点プロジェクトである「農業の再生」の実現のため、排水機場や堤防を含めた農地・農業用施設の復旧を可能なものから早急に実施し、農地の地力回復を含めた農業生産基盤の整備を推進しております。今後も、様々な方々の声や聞くことが出来る大きな耳と、種々の情報やキャッチアウトを高いレベルで持つ農業農村の復興に取り組みますので、皆様の協力をよろしくお願い致します。



農業総合センターだより

FOEAS(FOEAS)の実証試験と水田の放射性物質除去・低減技術

農業土木関係の平成24年度試験研究では、畑作物(大豆等)による転作の推進のための水田汎用化技術の実証と生態系配慮施設の管理技術の確立に取り組んでいます。また、昨年度は緊急に原発事故関連の農地の放射性物質の除去低減技術の開発に取り組ましました。今回はその取組みを紹介致します。

ほ場整備後の水田は従来型の暗渠排水の効果も十分にありませんが、数年すると代掻きにより不透水性層の耕盤ができて排水性が低下して、転作の畑作物や園芸作物の栽培には支障をきたすことがよくあります。そこで、水田汎用化の実現のために排水特性が良好で、作物の生育に必要な地下水位を一定に保持できる「地下水水位制御システム」FOEAS(FOEAS)を導入して、大豆の生育の比較試験を行っています。9月現在の状況は、FOEAS区では対照区に比較して草丈は長く、分枝数、莢(サヤ)数も多く収量アップが期待されています。なお、今年の8〜9月の雨量は例年の半分程度でしたが、FOEAS区では干ばつの影響もなく、地下かんがいにより省力的な栽培ができました。今後、暗渠排水工法の有効な工法として普及することを期待しています。

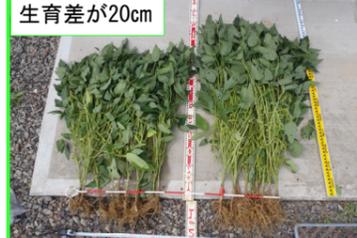
放射線物質除去技術では、平成23年度の研究成果「レーザーブル、レーザーバックホウを用いた水田の放射性物質の除去技術」の関係から、東北農政局の飯館村での農地除染対策実証工事(40ha)に当たり「農地の除染対策技術検討委員会・作業部会」の委員として助言させていただきます。当該の実証成果により、農水省「農地の除染対策技術書 調査設計編・施工編」(平成24年8月31日農水省ホームページにて公表)が策定されておりますので参考にしてください。【企画経営部 経営農作業課】

派遣技術者情報

福島県及び市町では、東日本大震災から、一日も早い復興・復興を果たすため、農業土木技術職員が不足しており、今年度は、農林水産省及び12道県から、復興力となる技術者を長期にわたり、派遣していただいております。福島県では、県外から派遣されて、復旧・復興に携わっていただいている農業土木技術職員の皆さんを「福耕支援隊」と呼んでいます。

「福島県の農業の復興」それは、「福島で、被災した農地をふたたび耕して、おいしい農作物を作る」ことから始まる。ある派遣職員の方から頂いたメッセージをヒントに「福耕支援隊」は生まれました。

福耕支援隊の皆様方の献身的な取り組みに感謝申し上げます。また、そのご家族と派遣元のご協力に対しても心より感謝申し上げます。また、未曾有の災害からの復興業務は、来年度以降、さらに増加する見込みです。今後とも福耕支援隊へご支援を賜りますようお願い申し上げます。



相双農林事務所農村整備部『福耕支援隊』(H24.9.28)

トピックス

11月4日(日)に、二本松市の道の駅ふくしま東和を発着点に、農業用水水源地域保全対策事業の一環として、今年で第6回目を迎える「あぶくまふるさとウォーク」を開催しました。今年は、約200名の参加があり、好天の下、晩秋の渓流や農村地域を巡り、復活した野菜の収穫体験を楽しみました。また、途中では、地域の文化や水源保全の説明を受けて、地域の文化や自然の大切さについて楽しく学びました。



はつか大根(ラディッシュ)の収穫体験

編集後記

10月25日・26日に秋田市で開催された農業農村工学会東北支部研究発表会の一環として、秋田駅前広場において、震災被害のパネルを展示させていただきました。パネルを見た一般の方々から、本県の津波被害の大きさに驚いたとの感想が多く寄せられました。本県は、原発事故以外のイメージが強いようですが、それ以外の状況については、もっと広報が必要であると、猛省しております。こうしたきっかけをいただいた秋田県の皆様はこの場を借りて、感謝申し上げます。また、11月15日から22日には、コラボ「ふくしま」を開催します。農空間の「パネル展」を開催します。農空間の復旧への取り組みを展示しますので、足を運んでいただければ幸いです。詳しくは、農村計画課ホームページをご覧ください。(編集担当 Y・M)

「農空間」とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。